

東京のまちづくり

洪水による水害防止に向けて ～調節池の整備～



東京都では、台風や集中豪雨による水害から都民の命と暮らしを守るため、川幅を広げたり、洪水の一部を貯留する調節池の整備を進めています。今回はこれまで整備してきた調節池について紹介します。



トノサマバッタの相変異の話

多摩動物公園 昆虫園飼育展示係 高田瑞希

多摩動物公園の昆虫生態園では、トノサマバッタの一生という展示を行っています。これは幼虫から成虫までの各成長段階を実際にご覧いただけるものです。

しかし、このバッタたち、皆さんが野外で見かけるトノサマバッタのイメージとは少し違っているかもしれません。一般的に思い浮かぶトノサマバッタは緑色だと思いますが、昆虫園で展示しているもののほとんどが黒褐色です。

実はトノサマバッタは、同じ種類でも個体密度の違いによって見た目や生態が変化します。その現象を「相変異」と呼びます。

緑色のものは個体密度の低い環境で育った「孤独相」と呼ばれるタイプで、後ろ脚が長く、跳ねるのに適した体をしています。野外で見られるトノサマバッタの大半はこちらのタイプです。

一方、昆虫園で主に飼育・展示しているものは、個体密度が高い環境で育った「群生相」と呼ばれるタイプです。体色が黒っぽくなるほか、孤独相に比べて翅が長く、高い飛翔能力をもっています。多摩動物公園ではトノサマバッタをモグラやニホンザル、ゲンゴロウなどのエサとして利用しており、多くの個体を高密度で飼育しているため、必然的に群生相となります。

昆虫園では孤独相と群生相、どちらも展示しています。ご来園の際には、ぜひ見比べてみてください。

動物園の“かお” 上野動物園 スマトラトラ



2020年11月に野毛山動物園から上野動物園にやって来たスマトラトラの「ミンピ」(メス)です。

特集1 洪水による水害防止に向けて
～調節池の整備～

特集2 特設ウェブコンテンツ
「東京Zoovie Maps & Tours」オープン!

特別特集 道路のバリアフリー化



東京都がこれまで整備してきた調節池の施設形式

① 掘り込み式

地上部を掘削してできた貯留空間内に洪水を貯留する施設。平常時には、公園やビオトープ等として活用される例もあります。



野川大沢調節池整備中(野川)



金山調節池(柳瀬川)

② 地下箱式

地下に箱型の貯留施設を設置し、洪水を貯留する施設。調節池上部は、公園としての利用や集合住宅の建築等、土地の有効活用を図っています。



城北中央公園調節池整備中(石神井川)



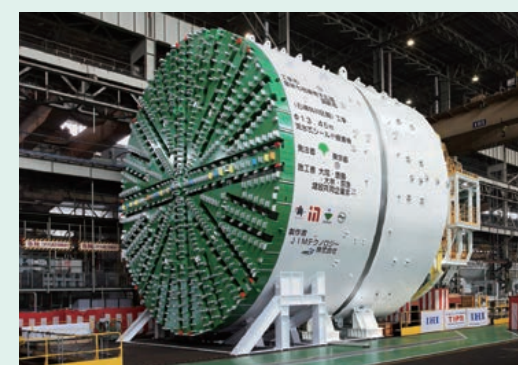
黒目橋調節池(黒目川)

③ 地下トンネル式

シールドマシンと言われる機械を使って設置された、地下トンネル状の貯留施設です。



神田川・環状七号線地下調節池



シールドマシン

○これまで東京都が整備してきた各調節池の詳細については、建設局のホームページからご覧になれます。

https://www.kensetsu.metro.tokyo.lg.jp/jigyo/river/chusho_seibi/ike.html



○地下調節池の疑似見学を体験してみよう!!
自宅にいながら、地下調節池の疑似見学を体験することができます。

<https://tokyodouga.jp/7sttjqdibts.html>

